

「奈良平城第二団地 感謝胸に最後の夏祭り」

令和8年(2026)7月25日 発行 奈良新聞

奈良新聞 第1社会面 (2026/7/25)

奈良市平城第二団地で54年続いた夏祭りが今年で幕を閉じる。自治会が担ってきたが、担い手不足や高齢化により継続困難となり、7月25・26日に「最後の夏祭り」を開催。子どもみこしや縁日、噴射花火など地域の伝統行事を通じて住民が感謝を胸に楽しむ。記事には1975年の盆踊りの写真が掲載され、デジタル版では1980年頃のみこしの写真が掲載されている。長年の地域交流の象徴として惜しまれつつ歴史に幕を下ろす。

令和8年(2026年)7月25日 土曜日

奈 良 新

奈良の平城第二団地できょう、あす

感謝胸に最後の夏祭り

奈良市石京の平城第二団地で54年間親しまれてきた「平城第二団地夏祭り」が、今年を最後に幕を下ろす。「最後の夏祭り」はきょうあす25、26の両日午後5時から9時まで、団地集会所前で開かれる。自治会が高齢化や加入者の減少を背景に、今年から夏祭りの取りやめを決めていたが、地域住民や団地ゆかりの有志が集い、ファイナルを盛り上げようと準備してきた。平城第二団地は1972(昭和47)年11月から入居を開始。翌年から夏祭りを開催し、盆踊りや子どもみこし、模擬店出店を通じて、世代を超えた交流の場となっていた。団地を出た人も、祭りを楽しみに帰省するなど、地域の象徴的な行事だった。しかし、半世紀がたち、子どもみこしや縁日、噴射花火など地域の伝統行事を通じて住民が感謝を胸に楽しむ。記事には1975年の盆踊りの写真が掲載され、デジタル版では1980年頃のみこしの写真が掲載されている。長年の地域交流の象徴として惜しまれつつ歴史に幕を下ろす。

54年の歴史に幕

告費などの経費を賄うためクラウドファンディングを実施。祭りの前日の24日午後7時までに目標の50万円を上回る支援金67万円が集まり、子どもみこしと楽しみにしていきます。「地元イベントがなくなるのは残念ですが、有終の美を飾ることができれば」などの応援メッセージが添えられた。最後の夏祭りは、近年実施できていなかった「子どもみこし」が25日午後4時30分から1日限



1975年の平城第二団地夏祭りで盆踊りをする人たち(平城第二団地自治会提供=県立図書館今昔写真WEB蔵=)

写真を撮もつと
奈良新聞デジタル

定で復活。飲食や縁日の模擬店のほか、26日は午後6時ごろから「奈良躍遊会」が河内音頭、炭坑節などを生演奏。同日午後8時45分から、地上噴射花火でファイナルを飾る。最後の横断幕には、長年掲げられた「あなたに愛されたこの街が好きです」のウドファンディングを実施。祭りの文言に「54年間ありがとう」と書き添えた。多くの人の思いとともに、いよいよ最後の夏祭りが開催される。田尻さんは「団地で育った人イイベントがなくするのは残念ですが、有終の美を飾ることができれば」などの応援メッセージが添えられた。最後の夏祭りは、近年実施できていなかった「子どもみこし」が25日午後4時30分から1日限



1975年の平城第二団地夏祭りで盆踊りをする人たち(平城第二団地自治会提供=県立図書館今昔写真WEB蔵=)

記事：1975年の平城第二団地夏祭りで盆踊りをする人たち



1980年ごろ、平城第二団地でみこしを担ぐ子どもら(平城第二団地自治会提供=県立図書館今昔写真WEB蔵=)

デジタル版：平城第二団地でみこしを担ぐ子どもら

写真：平城第二団地自治会提供=奈良県立図書館今昔写真 WEB 蔵=